

2月号

2014(平成26)年
2月6日発行

SCHOOL
JURIDICAL PERSON
OSAKA
SANGYO
UNIVERSITY

学園ニューズレター
[ネオス] No. 23

発行元：学校法人大阪産業大学
総合企画室 学園広報課
〒574-8530 大阪府大東市
中垣内3丁目1番1号
TEL：072-875-3001(代)
<http://www.osaka-sandai.ac.jp>



プロを目指し プロで輝く

■巻頭特集……02

●プロへの旅立ち

森 友哉さん(大阪桐蔭高校3年生)
満生 充さん(人間環境学部スポーツ健康学科4年生)
中山 仁斗さん(経営学部経営学科4年生)
江口 直生さん(経済学部国際経済学科4年生)

●プロで輝く産大生

奈良くるみさん(人間環境学部スポーツ健康学科4年生)
中嶋 浩二さん(人間環境学部スポーツ健康学科3年生)

■学園の源……08

大阪で花開いた交通教育実業

■ズームアップこの人！……14

燃やし続ける情熱は、
生徒一人ひとりが最大限輝くために！

大阪産業大学附属中学校 英語科教員
大阪産業大学附属高校 演劇部顧問
合田早加江先生

プロへの旅立ち

この春、学園生活を終え、プロとして新たなスタートを切るアスリートがいる。スタートラインに立ち、真のプロフェッショナルを目指す彼らが、いまの胸中と意気込みを語る。

——西武入団、おめでとうございます。

西武は勢いがあって粘り強いチーム。行きたい球団だったので、とてもうれしいです。1年目からレギュラーを目指す気持ちでアピールしていきたい。厳しい世界で、どこまでできるか試してみたいです。

——大阪桐蔭硬式野球部では、阪神に入った藤浪晋太郎投手とバッテリーを組み、2012年春・夏の甲子園連覇を成し遂げ、4季連続甲子園出場を果たしました。

甲子園に4回も行けるなんて、考えたこともありませんでしたが、とても満足しています。甲子園の思い出はたくさんありますが、初めて出た2012年のセンバツが印象的でした。準決勝の健大高崎戦でホームランを打って、ダイヤモンドを走ったことが忘れられません。また、2013年夏の大阪大会の決勝戦も印象に残っています。前半は接戦だったんですが、団結力で勝ちました。大阪桐蔭らしい野球ができた試合だと思います。藤浪投手は優しい先輩でした。プロでバッテリー対決したいですね。

——森さんは主将で捕手、そして打撃のかなめでした。

捕手は難しいポジションですが、駆け引きが楽しいです。でも、バッターとの両立は、なかなか大変です。U18(18歳以下)ワールドカップでも日本代表主将を務めました。大舞台では緊張しました。それでも「打ちたい」という気持ちを強く持つ



ていたもので、結果がついてきました。

——高校では寮生活でしたね。

最初はホームシックになったりしましたが、チームメートと毎日、苦楽をともにできました。練習も勉強も厳しかったけれど、なかなか経験できない充実した3年間だったと思います。やりきった、という感じです。

——これからも厳しい練習の日々が続きますね。

ここからが勝負なんだと思っています。勝負の世界は厳しいけれど、気持ちを切り替えて頑張っていきたい。しっかり練習して、体を鍛えながら、技術力も高めていきたいですね。

——どんなプロ野球選手を目指しますか。

守って打って長くやれる選手になりたいです。チームの大黒柱になればと思います。40歳ぐらいまでプレーできたらいいですね。

——後輩たちへのメッセージを聞かせてください。

新チームは、とても雰囲気がいいので期待しています。甲子園で優勝して、ぜひリベンジを果たしてほしいですね。

僕も小学生時代はそんなに野球が上手ではありませんでした。でも頑張っていてくると、ある時、急に上手になることがあるんです。どんなことでも、下手でも真剣にやっていたら、必ずチャンスはあると思います。スポーツでも勉強でも、あきらめずに頑張ってください。

久米さんとともに感謝状 駅転落 連係プレー救助



感謝状を贈られ、会見に臨む2人を多くの報道陣が取り囲んだ

森さんは、元副主将のクラスメート、久米健夫さんとともに、11月16日早朝、駅のホームから転落した男性を救助。JR西日本大阪支社は「甲子園のチームプレーのようだった」と2人の行動をたたえ、感謝状を贈った。

この日、登校中の2人は、JR新今宮駅(大阪市浪速区)で70歳代の男性がホームから足を踏み外して線路に転落するのを目撃。すぐに2人で1.5m下の線路に飛び降り、連係プレーで男性をホームに助け上げた。男性は目が不自由だったが、軽いけがですんだという。

感謝状を受け取った森さんは「当たり前のことをしただけ。助けることができてよかったです」と話していた。

チームの大黒柱になりたい

森 友哉さん（大阪桐蔭高校3年生）

西武ライオンズ入団内定

大阪桐蔭高校野球部の捕手として4季連続甲子園出場を果たした元主将・森友哉さんは、プロ野球・西武がドラフト1位に指名して入団が決まった。森さんが目指すプロ野球選手とは――。





江口直生さん
(経済学部国際経済学科4年生)
愛媛FC入団内定



満生 充さん
(人間環境学部スポーツ健康学科4年生)
藤枝MYFC入団内定



中山仁斗さん
(経営学部経営学科4年生)
ガイナレ鳥取入団内定

プロへの旅立ち

プロとは何か、プロ選手とは何か。

夢のステージに 向かう挑戦者たち

プロとしてスタートする大阪産業大学サッカー部のFW中山仁斗さんとMF江口直生さんのそばには、この4年間“プロ選手”がいた。Jリーグでプレーした経験を持つ同部のDF満生充さんだ。今回この3人に「プロフェッショナル」をテーマに語り合ってもらった。(文中敬称略)

中山さんは大阪産業大学附属高校の出身、江口さんと満生さんは大阪桐蔭高校の出身です。満生さんは高校卒業後、水戸ホーリーホックでプレーした経験があります。





——プロ経験を持つ満生さんから見て、中山さん・江口さんの魅力とは？

満生 中山は身体能力の高さで言えば、素晴らしいものを持っています。強くて速くてシュートもうまい。メンタル面を鍛えれば、J3でなら十分に得点王を狙えると思いますね。江口は大阪桐蔭高校時代の後輩ですが、当時からキックの正確性は群を抜いていました。両足を遜色なく使えるし、ボランチとしてのゲームメイクも巧みです。特にフリーキックは素晴らしく、僕は何度も彼のアシストでゴールを決めているんですよ。プロでもきっと活躍できると思います。

中山 入団先にも、前線で身体を張るプレースタイルを評価してもらったようです。メンタルの部分に関しては、満生くんからも亀谷監督からも言われ続けています(苦笑)。試合で失敗をすると、どうしても弱気になってしまう。ひたすら練習をして、自信をつけていきたいです。

江口 僕は昨年の8月頃から11月にかけて参加させてもらった愛媛FCの練習で、自分自身、納得いくパフォーマンスができたんです。得意とするパス、シュート、フリーキックがうまくいった。11月の半ばに正式なオファーをいただきました。うれしかったですね。

——満生さんにとって、プロとはどんな世界ですか？

満生 大阪桐蔭から大産大へ入学して、休学という形で水戸ホーリーホックに入団していたので、水戸を退団となった時に、すぐに復学できました。中山や江口など、2歳下が同級生です。高校を卒業後にFWとしてプロチーム入団が決まり意気込んでいたんですが、プロ選手はパスのスピードもプレーの判断も早いし、フィジカルの強さなどすべてのレベルが高く、戸惑うばかりでした。

中山 元日本代表のDFにマークされて、何もできなかったと話していましたよね。

満生 自分のできうる限りのプレーをしたんですが、常に先を読まれていて、動くことすらできませんでした。2年目は自信がついてきていたんですが、シーズンの開幕直前にけがをしてしまったんです。結局その年はまったくプレーできず、シーズン終了後に退団となりました。

プロは結果を出して当たり前。個人的には人に夢や希望を与えるのが、真のプロフェッショナルだと思っています。僕は、もう一度Jリーグでプレーするつもりです。けがをして2年間サッカーをできなかった僕が、復帰して今もう一度プロを目指している。実現できれば、けがで苦しんでいる選手の希望になれるかもしれない——そう思っているんです。

江口 プロの選手とは、サッカーの技術においても、フィジカルやメンタルにおいて

も、自分で課題を見つけ、取り組める人間だと思う。周囲に言われるからやるのではなく、自ら改善点を把握し修正していけるプレーヤーがプロ。満生くんや知り合いのプロ選手を見てそう感じ、大学時代は父に頼んで公式戦すべてをビデオで撮影してもらい、いつも見直していました。

——今後の目標を教えてください。

中山 まずは試合に出ること、そして皆さんのゴールを挙げること。現在入団するチームはJ3ですが、必ずJ1に昇格してプレーしたい。目標とする選手は、サンフレッチェ広島の前田寿人選手です。動き出しの速さやワンタッチでゴールを決められる力を、自分のものにしたいですね。

江口 開幕スタメンを狙い、チームの中心的な存在になれるように頑張ります。人間的にも成長して、ファンに愛される選手になりたい。まだまだ遠い夢ですが、いつかは海外や日本代表でもプレーしたいと思っています。

満生 2人がうらやましいですね。僕もあきらめません。もう一度Jリーグでプレーできなければ、大学での4年間が無駄になる。プレずに強い気持ちで挑戦していくつもりです。将来は指導者になって子どもたちにサッカーを教えたい。そのための経験値もプロで得たい。Jリーグで300試合出場を目指します。



亀谷涼監督から3人への激励メッセージ

社会に貢献できる“人間”になってほしい

3人ともレベル的には申し分なくプロでやっていける選手。必ず活躍できると信じています。プロサッカー選手もまた社会人です。人や地域、社会に貢献する人間にならなければなりません。まずはプロでやっていける基礎体力をしっかりと身につけ、一心にサッカーを頑張る。そして、人々に夢を与えられるような選手になってほしい。その姿を後輩たちが見れば、大学のサッカー部もまたレベルアップします。期待しています。

プロで輝く産大生

大阪産業大の現役学生の中には、プロとして世界を飛び回っているアスリートがいる。テニスの奈良くるみさん(人間環境学部スポーツ健康学科4年生)とキックボクシングの中嶋浩二さん(リングネーム・中嶋平八、同学科3年生)だ。厳しい世界を強い精神力で戦い抜いている2人に、プロスポーツにかける熱い思いを語ってもらった。

目の前の一試合を大切に

奈良くるみさんにとって2013年は最高のシーズンになった。全米オープンで1、2回戦を勝ち上がり、初めてグランドスラム(世界4大会)でベスト32入りを果たしたのだ。3回戦では、第9シードで元世界ランク1位のエレナ・ヤンコビッチ選手に4-6、6-7(7)で敗れたが、この活躍でランキングトップ100位内に躍り出た(最高位は70位)。続くHPオープンでは準々決勝でポロナ・ヘルツォグを破り、ツアー大会で初のベスト4に進出した。「ヤンコビッチ選手が『いいプレーだった』と言ってくれたんです。うれしかったです」

強くなったのは「体がしっかりして、パワーがついてきたから」だという。「たとえ悪いコンディションでも頑張れる」ほどだ。大柄な外国人選手と対等に打ち合える体力や筋力は、日々の練習のたまもの。東京のナショナルトレーニングセンターを拠点に、男子プレーヤーとの打ち合いなどもある一日4時間

負けても、前向きな心で



の練習と、走り込みなどのトレーニングを黙々とこなしている。だんだんとフットワークが良くなり、スイングスピードも速くなってきた。地道な努力が、ここにきて花開いた。

大阪産業大学附属中学・高校・大学と進んだが、テニス一色の生活で、あまり学校に通えなかった。「先生や友達がサポートしてくれました。感謝しています」。楽しかったのはインターハイ。「テニスは個人スポーツですが、団体戦ではチーム全体で頑張れたので特に楽しかった。当時の友達とはめったに会えなくなったけれど、メールでやりとりしています」

兵庫県川西市出身。両親の趣味がテニスで、3歳でテニスを始めた。ジュニア時代から、トントン拍子で勝利を重ねた。勝つことが楽しくて、小学生のころからプロを目指し、2009年、高校2年でプロになった。

ところが、プロになったら負けることの方が多くなった。それでも、シーズンは1年間という長いスパンで、大会が目白押し。プロは毎日が勝負だ。落ち込んでいる暇はない。

「負け続けていても、トレーニングをしながら気持ちを上げていくようにしました。前向きに、ツアー全体をしっかりと楽しむことを心がけています」という。「負けても勝っても、目の前の一試合に向けて、やるべきことをやりきる。それが次につながります」

奈良さんのテニスに臨む姿勢——それはそのまま後輩たちへのメッセージでもある。スポーツでも勉強でも就活でも、ひたむきな心が自分を育てていく。

「どんな時も、自分にできることをしっかりとやると、充実した時間を送ることができます。一日一日を大切にやっていくことが大事だと思います」

奈良くるみさん
(人間環境学部スポーツ健康学科4年生)



自分を信じてリングに臨む



中嶋浩二さん
(人間環境学部スポーツ健康学科3年生)

もともとスポーツ少年だった中嶋浩二さん。大阪市に生まれ育ち、野球や陸上などの競技を経験し、高校時代はボクシングでインターハイ出場を果たした。高校卒業後、19歳の時、最初の転機がやってきた。知人が通っていたジムに見学に行き、キックボクシングの楽しさを知った。「やるからにはプロに」と受けたプロテストに合格。「でも、プロになってからのほうが大変でした」と明かす。

少ない試合数でのファイトマネーは限られていて、アルバイトをしながらの練習。ジョグ、シャドー、サンドバッグ——と、毎日決まったメニューをこなす。どうしてもマンネリ化しがちだが、「自分に勝たないと、相手にも勝てない」と自らを鼓舞し続けた。

そして24歳の時、実績十分の相手を倒し、NJKF フェザー級王座を獲得。この2度目の転機に、中嶋さんは中学・高校の体育教員を目指すことを決意し、教員免許を取得できる大阪産業大学に入学した。

学生になってから、中嶋さんの生活は一変した。教職課程の単位数は多く、朝から大学へ。授業が終われば、ジムへ直行し、夜遅くまで練習。試験はジムを休んで受けたり、休日に課題をこなして、学業との両立に努めてきた。

ハードな生活だが、大学で学ぶことは多かった。「授業がおもしろいんです。自分の競技につながっていることばかりでした」という。「メンタルを含め、いろいろなトレーニング方法を学んで、練習のスタイルが変わったしパターンが増えた。筋トレには休養日が必要なことも知りました。コアトレーニングや、使う筋肉を重視したトレーニングは効率的でした」

友達も、たくさんできました。「僕は27歳なのでみんな年下ですが(笑)、いい学生ばかり。いろいろ助けてくれます」。2013年9月、地元・大阪で行われた

ISKA世界タイトルマッチにも応援に駆けつけてくれた。この大会で、サウスポーのイギリス人選手を攻略し、新王者に。「めっちゃ強い相手に勝っての世界ベルト。自分を信じて、自分は強いと思ひ込むようにして挑みました。練習はつらいことばかりですが、大きな壁を乗り越えた時の喜びは何ものにも代えがたいです」

「僕の武器は、パンチ。これに頭脳が備われば…。ただ単に練習するだけじゃなく、頭を使わないと強くなれません。効率の良い動き方を考え、フォームをチェックしながらの練習が必要。また相手の動きを読むことも大切です」

当面の目標は、WBCタイトルマッチの出場権を獲得すること。そして将来は、「自分が経験してきた思いを、子どもたちに伝えたい。つらい時は折れてもいいから、その次に、雑草みたいに立ち上がる——そんな心を育てたい」。教師になる夢を胸に、今は次のリングを見つめている。

しっかり考えながら練習



2月16日対戦決定!! (15ページ参照)



その源

学園の

～瀬島学長が語る大産大ヒストリー～

大阪で花開いた 交通教育実業

1928(昭和3)年に瀬島源三郎によって設立された大阪鉄道学校は順調に生徒数を増やし、創立10周年には生徒数約1000人を擁するほどに成長しました。1940(昭和15)年から3年間、大阪鉄道学校に学んだ村上末治さんは現在86歳。大阪産業大学理事と附属高校同窓会長を務めています。連載「学園の源」2回目は、村上さんに当時を振り返っていただきました。



村上末治さん

大阪産業大学理事・
大阪産業大学附属高校同窓会長

運転士になりたいくて

1938(昭和13)年、学園に朗報が届きました。「大阪第一鉄道学校」の校名で、日本初の交通教育実業学校として認可されたのです。これは修業年限5年の甲種中等学校で、既存の大阪鉄道学校(1945年3月廃止)に併設する形でした。私は3年制の大阪鉄道学校で学びました。

私は中河内郡西郡村(現在の八尾市)の生まれです。父は私が4歳の時に病死し、母が農業をしながら私と兄と弟の3人を育ててくれました。私は幼いころから電車が好きで、運転士にあこがれていまし

たし、叔父の勧めもあって大阪鉄道学校に入学、旭区大宮町にあった学校に西郡村から通いました。

瀬島校長の思い出

校長先生(学園の創始者・瀬島源三郎)の思い出で、忘れられないことがあります。入学してしばらくたった日の朝のことでした。その日、私は駅から学校まで走って登校していたのですが、私の前を2人の先輩が歩いておられました。そこで私は先輩の前に回って、敬礼をして、先を行かせてもらいました。

その直後の運動場での朝礼で、なんと校長先生が全校生徒にこの出来事を紹介してくれたのです。「けさ、1年生が2年生に敬礼をして追い抜いたのを見かけました。私は、晴れ晴れとした気持ちになりました」と。私はうれしくて、「本当に素晴らしい学校に来たなあ」と感動しました。

厳しかった教練の時間

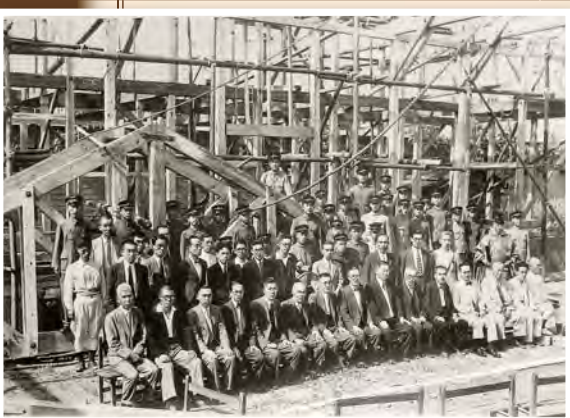
実習では現場で継電器の保守点検をして楽しかったです。でも、時代は戦争へのうねりの中にありました。教練の時間

では、大変厳しかった記憶があります。大阪砲兵工廠(現在のJR大阪城公園駅の東側地域)に駆り出されたこともあります。



第10期卒業生＝1935(昭和10)年

第二次世界大戦(太平洋戦争)が始まったのは1941(昭和16)年の12月8日。私は1943(昭和18)年に卒業、海を渡って朝鮮鉄道に勤めました。帰国後いったんは実家の農業を継ぎましたが、1946(昭和21)年に当時の国鉄に入社しました。学園には1949(昭和24)年に新制高校、1950(昭和25)年には大阪交通短大ができましたので、私はいずれも夜間部で学び直しました。国鉄の仕事をこなしながらの通学は大変で、帰宅はいつも深夜になりましたが、先生方や友達に恵まれて、充実した日々でした。今の私があるのも、学園のおかげだと思っています。



武道場上棟式＝1940(昭和15)年

3年生のみなさんへ 2015年3月卒業予定

●大型学内合同企業説明会



2月13日(木)、14日(金)、大型学内合同企業説明会を総合体育館で開催します。約180社の上場企業、優良企業がブースを設け、人事採用担当者が本学学生へ直接企業説明をします。学生にとって上場企業、

優良企業の人事採用担当者に出会える貴重な場です。学外で開催される企業説明会に参加することも大切ですが、まず、学内で開かれる説明会でチャンスを生かしてください。例年、学内合同企業説明会に参加している企業にたくさんの学生が内定をもらっています。

今年度の参加企業(一例)

株式会社NTTデータ関西・株式会社エディオン・大阪シティ信用金庫・株式会社大阪めいらく・株式会社きんでん・東洋シャッター株式会社・株式会社キリン堂・大和ハウス工業株式会社・株式会社NTTファシリティーズ・大東建設株式会社・株式会社かんでんエンジニアリング・フジテック株式会社・高木証券株式会社・上新電機株式会社・大鉄工業株式会社・株式会社トリドール・西尾レントオール株式会社・アートコーポレーション株式会社・株式会社南都銀行・島津グループ・株式会社ジャパンビバレッジホールディングス・ALSOKグループ・大阪ガス株式会社

●2月、3月連続合同企業説明会

大型学内合同企業説明会に引き続き、2月19日(水)～21日(金)、2月26日(水)～28日(金)、3月4日(火)～7日(金)も集中して学内合同企業説明会を開催します。参加企業は、進路・就職支援システムへ掲載しています。事前に参加企業のHPでチェックしてください。

●個別面談実施

2015年3月卒業予定者を対象に1月から2月にかけて、キャリアセンターの職員(各学科担当者)による個別面談をキャリアセンターで実施しています。個別面談では、就職活動についての不安や希望する業界についてのことなどを相談してください。

●スキルアップ合宿の案内

3年生対象に講師を招いて1泊2日で2回実施し、就職活動の意識の向上と学生個々の力量を高め就職内定につなげます。場所は大阪産業大学内で、1回目は2月17日(月)～18日(火)、2回目は2月18日(火)～19日(水)に実施します。内容は、自己PR、面接対策、志望動機など就職活動に直結するものです。キャリアセンターへ申し込みが必要です。

●2月・3月の行事予定

2月

13(木)	3年生生説直前就職ガイダンス① 大型学内合同企業説明会①(体育館)
14(金)	3年生生説直前就職ガイダンス② 大型学内合同企業説明会②(体育館)
17(月)	スキルアップ合宿(1日目)②
18(火)	スキルアップ合宿・会社見学会(2日目)②/スキルアップ合宿(1日目)③
19(水)	G面接・GD対策講座②(9402) 学内合同企業説明会(東部AMC-5F) スキルアップ合宿・会社見学会(2日目)③
20(木)	模擬G面接・GD①(9211) 学内合同企業説明会(東部AMC-5F)
21(金)	模擬G面接・GD②(9211) 学内合同企業説明会(東部AMC-5F)
26(水)	模擬G面接・GD③(9211) 学内合同企業説明会(東部AMC-5F)
27(木)	模擬G面接・GD④(9211) 学内合同企業説明会(東部AMC-5F)
28(金)	模擬G面接・GD⑤(9211) 学内合同企業説明会(東部AMC-5F)

3月

4(火)	ミニ一般常識テスト・解説① 学内合同企業説明会(東部AMC-5F)
5(水)	ミニ一般常識テスト・解説② 学内合同企業説明会(東部AMC-5F)
6(木)	ミニ一般常識テスト・解説③ 学内合同企業説明会(東部AMC-5F)
7(金)	ミニ一般常識テスト・解説④ 学内合同企業説明会(東部AMC-5F)
25(火)	インターンシップ説明会(新3年生)

4年生のみなさんへ

●諦めないで!!

大学の追加求人票を活用して就活を!!

昨年11月末に大阪府下を中心とした近畿圏の企業へ追加求人依頼を発送し、1月8日現在約321社から求人票が届いています。大学近辺の企業からも来ています。

大学に届いた求人票はキャリアセンターの進路・就職支援システムで検索可能です。自宅や学内の演習室、キャリアセンターのパソコンを利用してリアルタイムな求人検索を行うことができます。また、キャリアセンター内4年生求人票コーナーで追加求人票のファイルも見ることができます。不明なところはキャリアセンターの職員にお尋ねください。就職ウェブサイトの求人案内が減る中、大学の求人案内を利用して内定につなげてほしいと考えます。



●キャリアカウンセラーが

就職相談の支援

キャリアカウンセラー2人が昨年4月より、常駐しています。就職活動中の不安や焦り、「就職活動が続けてきたが、自分に自信が持てなくて悩んでいる」「前期を授業中心に取り組んで、後期から就職活動を始めたので不安」など、4年生で現在就職活動中の方は、どのような質問でもかまいませんので、経験豊富なキャリアカウンセラーへご相談ください(相談予約が必要です)。

2年生のみなさんへ

●インターンシップ説明会開催

インターンシップは、学生が企業などにおいて実習や研修で就業体験をすることで、人生の選択の幅を広げ、柔軟な思考力を涵養することを目的としています。主に3年生の夏期間間を利用して行います。開催日は3月25日(火)を予定しています。



左から奈良さん、
谷口さん

奈良さん&谷口さん 少林寺世界3位

8月24、25日に「2013少林寺拳法世界大会 in Osaka, Japan」が大阪市中央体育館で行われ、人間環境学部生活環境学科3年生の奈良和記さんと経済学部2年生の谷口尊信さんの組が、一般男子二段の部で世界3位入賞を果たした。

大学から少林寺拳法を始めた僕が世界大会というとても大きな大会で入賞することができました。これは、監督の横田先生をはじめ、周りの方々のご指導のおかげです。また、相手の谷口君には感謝の気持ちでいっぱいです。これからは主将として部を引っ張っていけるように頑張ります。(奈良さん)

今回、全国大会で1位にさせていただき、4年に1度しかない世界大会に出場することができました。世界大会では3位入賞という結果を残すことができ、本当にうれしかったです。このような結果を残せたのも、僕と組んでいた先輩、指導してくださった監督・OBの方々のおかげです。これからより上達できるように、練習に励んでいきます。(谷口さん)

留学生イベント盛会

第6回留学生フェスティバル
第11回留学生日本語弁論大会

10月27日に多目的ホールで第6回留学生フェスティバルが開かれ、中国舞踊や太極拳、舞龍などの迫力ある演技や楽器演奏などがあった。

韓国留学生による「韓国伝統舞踊」では扇による息の合った舞が披露され、「SEXY DANCE」は魅力的な演技で会場全体を魅了した。ほかにも特別出演で「よさこい鳴子踊り」やストリートダンスなどがあり、4時間にわたって盛り上がった。

また、12月7日には第11回留学生日本語弁論大会が行われ、「おもてなしについて」などのテーマで留学生がそれぞれの思いを発表した。



イベント満載で華やかに ホームカミングデー

11月3日に第5回ホームカミングデーが開催された。Wellness2008アリーナではバレーボール部OB対在学生の親善試合が行われ、ギャラリーも息をのむような白熱した戦いが繰り広げられた。東部キャンパス クリスタルテラスでは懇親会が行われ、瀬島学長によるマジックショーをはじめ、キックボクシング世界チャンピオンの中嶋浩二さん、第31回準ミス天神橋の石井友理さんら多くの学生ゲストも詰めかけて大いににぎわった。



吹奏楽 心温まる演奏

クリスマスコンサート

12月22日、大東市立総合文化センター(サーティホール)大ホールにて、大学文化会吹奏楽部によるクリスマスコンサートが開かれた。

「ディスコ・キッド2011」や「クリスマス・キャロル・ファンタジー」「花は咲く」など、心温まる演奏に来場者は酔いしれていた。

また、サンタが登場し子どもたちにプレゼントを配るといったサプライズもあり、会場は大いに盛り上がった。

豪華ゲストも来場で大盛り上がり

阪駒祭

11月1〜3日に第48回阪駒祭が行われた。毎年恒例の迫力ある演武祭や、笑いを中心としたプロレスなどがあった。ゲストのSHAKALABBITSのステージや、吉本芸人のLIVEもあり、イベントや魅力あふれる企画が目白押しの3日間となった。



空手の勝岡さん大健闘



11月10日、第39回近畿地区空手道選手権大会が大東市立市民体育館で行われ、人間環境学部スポーツ健康学科4年生の勝岡未来さんが一般女子組手で準優勝、一般女子形で第3位と優秀な成績をおさめました。

学生主体のスポーツクラブ

人間環境学部スポーツ健康学科の学生による新しい形のスポーツクラブ「はつらつハートクラブ」がスタートした。医療機関・ダイナミックスポーツ医学研究所(大阪市中央区西心斎橋)併設の施設内で開き、運動指導は医療資格を持った健康運動指導士が行う。経済産業省のヘルスケア創出支援事業「民間フィットネスクラブと医療連携による高品質運動指導の普及事業」の一環。

糖尿病を中心とした生活習慣病の患者を対象に、「患者には軽めの運動を」という常識を超えて、少しきつめの運動を楽しく・元気に行うことで、筋肉のミトコンドリア(生命活動に必要なエネルギーを生み出す器官で、この機能が落ちると糖尿病や癌になりやすい)を活性化させる。

プログラムの発案から費用の管理まで、学生主体で行うのが特長。スポ健生による新しい挑戦に期待が高まっている。



大産大附属中学・高等学校

白銀の中、楽しく滑走 中学2年生スキー研修旅行

中学



中学2年生のスキー研修が1月20～22日、飛騨流葉スキー場(岐阜県)で行われた。

到着後、ウェアを合わせ、昼食をとり、いざスキー場へ。グループに分かれ、インストラクターの先生の指導のもと、和気あいあいとスキーを楽しんだ。初めてスキーをする生徒は、ブーツを履くことから苦戦していたが、講習が終わる頃には滑れるようになっていた。2日目は、白銀の中一日中スキーを満喫した。前日には全く滑ることができなかった生徒も、初心者とは思えないほど、うまくなった。

このスキー研修の経験は、生徒たちにとってスキーの上達はもちろん、仲間との絆を深める有意義な2泊3日となった。



懸命に札を取り合う 百人一首大会

中学



中学1年生最後の学校行事である、百人一首大会が1月25日に開かれた。1・2限目授業参観の後、多数の保護者の応援の中、生徒たちは5人1組に分かれて札を取り合った。

百人一首は、6月頃から授業で学び始め、3学期に入ってから何度も実践練習をしていた。授業で覚えたため、上の句が読まれた瞬間に札を取り合うという場面が何度も見られた。日頃の成果が存分に発揮されていた。

中学生になって、初めて百人一首に触れた生徒もいたため、実力差は多少あったが、笑顔が絶えない、楽しく意義のある大会となった。

河原さん有終のV 少林寺拳法

中学



12月26日、中学校少林寺拳法近畿大会が尼崎市立大成中学校で開かれ、3年生の河原やよいさんが女子の部で見事優勝を成し遂げた。河原さんは、これまでもさまざまな中学生大会において好成績を残してきたが、中学生生活最後の大会で有終の美を飾った。

●女子単独演武の部

1位 河原やよい

5位 西井 怜奈

●男子単独演武の部

2位 木下慶一郎

英語や音楽

楽しく披露

文化発表会

中学

11月19日、中学体育館で13回目の文化発表会が開かれた。

ステージでは、英語暗誦大会の決勝があった。1年生は10人が参加し、覚えてたの英語でスピーチ。2年生15人は花火職員を題材にした「MY DREAM」という文章を独自の表現で披露し、3年生8人は、人権をテーマにした「I HAVE A DREAM」を身ぶり手ぶりを交えながら発表した。

合唱コンクールもあり、「夜空ノムコウ」や「キセキ」など人気の高い曲も披露された。また、合奏コンクールでは、「妖怪人間ベム」や「ペコリナイト」など多彩な曲を、被り物や紙テープなどの「仕掛け」も交えて演奏。個人演奏では、3年生の中村愛典さんが平清盛のテーマを演奏し、会場から惜しめない拍手が贈られた。



高校

オーストラリアを満喫 高校2年生修学旅行

高校2年生は、12月9～19日、3泊5日の日程で3団に分かれ、オーストラリアのケアンズを訪れた。

1日目は、レインフォレステーションで大自然の鑑賞や異文化体験をした。スカイレールゴンドラでは大自然を上空から見学し、熱帯雨林の壮大なパノラマに感動、水陸両用車での探検、記念植樹、アボリジニの文化体験など充実した一日を過ごした。

2日目は、世界有数のラフティングスポットであるタリー川でラフティングに挑戦。「前漕ぎ」「後ろ漕ぎ」「ジャンプ」とインストラク

ターの指示に戸惑ったが、終盤にはすっかりラフティングのとりことなっていた。

3日目は、グリーン島・クロコダイル鑑賞・乗馬体験を堪能。グリーン島ではグラスボートから珊瑚の鑑賞、シュノーケリングやビーチバレーなどを楽しんだ。クロコダイル鑑賞では、餌付けの迫力に圧倒されながらもクロコダイルも抱き、乗馬体験では約1時間の乗馬を体験した。

オーストラリアの文化を肌で感じるとともに、初めてのことにチャレンジするなど、貴重な経験をすることができた。

大阪桐蔭中学・高等学校

4クラブ「全国」で活躍

大東市長に出場報告

高校



全国大会で活躍した、大阪桐蔭高校ラグビー、女子サッカー、陸上競技、吹奏楽の4クラブのメンバーが、12月17日、大東市役所を訪れ、東坂浩一市長に出場の報告をした。

吹奏楽部

- 第26回全日本マーチングコンテスト 高校以上の部 **金賞受賞**
- 第61回全日本吹奏楽コンクール **銀賞受賞**



マーチングコンテスト

吹奏楽コンクール

ラグビー部

- 第93回全国高等学校ラグビーフットボール大会

全国第3位

大阪桐蔭(大阪第2)	0-43	桐蔭学園(神奈川)
大阪桐蔭(")	41- 3	秋田工業(秋田)
大阪桐蔭(")	34-17	佐賀工業(佐賀)
大阪桐蔭(")	20-15	国学院栃木(栃木)



女子サッカー部

- 第22回全日本高等学校女子サッカー選手権大会

全国ベスト8

大阪桐蔭(関西3/大阪)	0-1	神村学園高等部(九州1/鹿児島)
		(PK3-1)
大阪桐蔭(")	2-1	聖和学園高校(東北2/宮城)
大阪桐蔭(")	1-1	湘南学院高校(関東4/神奈川)



陸上競技部

- 男子第64回全国高等学校駅伝競走大会出場
2時間7分38秒 22位



五・七・五に 初挑戦

中学1年生俳句講座

中学



12月10、11日に中学1年生を対象に、俳人の倉橋みどり先生を迎えて俳句講座が開かれた。ほとんどの生徒が俳句づくり初挑戦という中、倉橋先生は「俳句らしく作ろうとせず、ここ数日の自分の生活を思い出して、自分が実際に体験したことや感じたことを五・七・五にまとめてみてください」とアドバイス。次々に俳句ができあがった。

世界で一番短い詩で日本の誇る文芸である俳句。この俳句講座をきっかけに、将来は俳人が生まれるかも？

●つらはる 駅のホームに ひっそりと
●帰り道 メガネくもらす 白い息
●冬の木は 春の準備に いそがしい
●寒い冬 それにも負けぬ 心の火

吹奏楽部 地元クリスマスイベントに参加

高校



吹奏楽部は12月14日、大東市のイルミネーション企画「スマイルミネーション」に参加した。生徒たちは、大東中央幼稚園からJR住道駅前デッキまで、「サンタ セレブレーションパレード」を演奏しながら先導。末広公園での点灯式にも出演し、地域のイベントの幕開けを彩った。



大阪産業大学附属中学校 英語科教員
大阪産業大学附属高校 演劇部顧問

合田早加江 先生

演劇部の顧問を務めて15年。芝居の経験などなかった合田先生を「演劇がなくては生きていけない」と思うまでにさせたのは、たくさんの“情熱”でした。

青春ドラマのようなクラブ

私たちのクラブは、大阪では珍しい男子部員が多い演劇部です。劇のジャンルは超コメディ。脚本から舞台装置づくりまですべて生徒が行い、私は客観的な立場から、演出を行う役目を担っています。パワーあふれる演技と、面白おかしく、最後はちょっぴりほろっとさせる演出の認知度は年々上昇していて、「他にはないパワフルさ」が内外から評価されてきました。

部員は皆、演技が上手なわけではありません。動きはかたいですし、姿勢や滑舌も特別良いわけではないのですが、演劇にかけるエネルギーは凄まじいものが

燃やし続ける情熱は、 生徒一人ひとりが 最大限輝くために！

あります。練習は週3回が基本ですが、公演日が近づけば毎日夜遅くまでやっていますし、大会で負ければ涙を流す。日々、テレビの青春ドラマのように熱っぽく、素直で、本当に一所懸命なんです。そんな姿を見ていると私自身も元気になります。

演劇で磨かれる能力とは

産休に入った前任の先生から依頼されて顧問になった当初は、演劇の経験もなかったのですが、演技指導など皆無。でも、他校の演劇部顧問の先生方との交流から、



演劇に魅せられるとともに、顧問、教師としての心構えを学びました。その先生方とは一緒に舞台も作りましたが、他校には私が足元にも及ばないほど元気で快活な先生がたくさんいて、生徒にとって何が大事か、何をすれば生徒が幸せになれるかを一心に考えている。この情熱を私も持たなければならぬと強く感じたんです。今では、いろんな角度から積極的に生徒にかかわろうとしていますので、しつこいと思われるかも(笑)。

演劇は、生徒が社会に出る上で大切なコミュニケーション能力を高めてくれます。人とコミュニケーションを取ることで、自分自身を理解することもできます。そして、自分の気持ちを言葉にする力、仕草、目の動きなどを、演劇で磨くことができます。入部当初は恥ずかしくて相手の目を見て話せなかった生徒が、立派に人と話せるようになって卒業していくのを見るのが私の幸せであり、やりがいです。ちなみに卒業生ともずっと交流があり、先日も部員同士の結婚式に呼んでももらいました。うれしかったですね。

これからも変わらず、生徒一人ひとりが最大限輝くための手伝いをしたい。部活でも授業でもこの思いは変わりません。皆を全力で愛しますよ！



クリスマス演劇の指導にも熱が入る

こうだ さかえ 大阪市生まれ。1991年度より大阪産業大学附属高校勤務。1998年度より演劇部顧問を務める。現在は附属中学校で英語教諭として勤務。趣味は観劇、映画鑑賞、旅行など。

大阪産業大学

■アメリカンフットボール部

○関西学生アメリカンフットボールリーグ(9/9～11/6EXPO FLASH FIELD 他) Div II: 1位2勝1敗【0-22 桃院大、19-13京産大、21-17同志大】

■空手道部

○第5回関西学生空手道オープントーナメント(9/8 近畿大学記念館)【個人組手ジュニア】女子3位: 青木いづみ(スポーツ2年)

○第55回全関西大学空手道選手権大会(10/6龍谷大学体育館)【団体】男子: 2部降格・女子: 5位入賞
※男女ともに全日本大学空手道選手権大会出場権獲得

■柔道部

○全日本学生柔道体重別大会(9/28・29日本武道館)【個人】66kg級=3回戦敗退: 松下勇次(経営3年)・-100kg級=3回戦敗退: 若園透吾(文コミ2年)・60kg級=2回戦敗退: 佐々木大(流通3年)・73kg級=2回戦敗退: 大石源(スポーツ1年)・81kg級=2回戦敗退: 山本悠介(経済4年)・+100kg級=1回戦敗退: 若園

■ゴルフ部

○関西女子学生秋季1部校学校対抗戦(9/24・25 芦屋カントリー倶楽部)1部 6位/8校: 合計653

※1部残留

○関西学生男子月例大会(9/19奈良柳生カントリークラブ)5位: 奥田健司(経済3年)〈77〉※5位迄の学生は会長杯本大会出場決定

○関西学生女子月例大会(9/19奈良柳生カントリー

クラブ)3位: 種池朱李(スポーツ2年)〈81〉※3位迄の学生は会長杯本大会出場決定

○関西学生男子会長杯(本選)(10/7～9大甲賀カントリークラブ)16位T: 金村俊徳(経済2年)〈70.78.82/230〉

■女子硬式庭球部

○関西大学テニス選手権大会(9/2～9韋テニスコート)【女子ダブルス】ベスト4: 鈴木麻友(文コミ4年)・横山菜里(文コミ4年)組

大阪桐蔭高等学校

■陸上競技部

○天皇盃 第19回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会(1/19)※大阪代表として出場

第1区=区間7位: 中村祐紀(3年)・第4区=区間21位: 細川隆太(3年)

■ゴルフ部

○第34回関西高等学校ゴルフ選手権決勝大会(12/17～19花屋敷ゴルフ倶楽部)

【男子】15位 計152(73.79): 山崎聡一郎(2年)

【女子】優勝 計152(79.73): 加藤沙弥(1年)

※上記2人は第32回全国高等学校ゴルフ選手権春季大会の出場権獲得

大阪産業大学附属高等学校

■自転車競技部

○国民体育大会(9/29～10/3立川競輪場)トラック競技出場: 増田拓貴(3年)

■ウエイトリフティング部

○第3回全国都道府県対抗女子ウエイトリフティング選手権大会(9/22石川県いしかわ総合スポーツセンター)女子75kg級7位: 知念ひめの(1年)

○レディースカップ 第5回全日本女子選抜ウエイトリフティング選手権大会(11/20～22長崎県諫早農業高校体育館)【団体】19位【女子75kg級】3位: 知念○第18回近畿高等学校ウエイトリフティング競技大会/平成25年度第29回全国高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会予選会(1/11・12羽曳野市立総合スポーツセンター)【女子48kg級】3位: 岩本彩香(1年)【女子75kg級】1位: 知念【男子62kg級】2位: 佐藤諒治(2年)

■少林寺拳法部

○大阪高等学校秋季新人大大会兼第31回近畿高等学校少林寺拳法大会予選(11/10同志社香里高等学校)【男子自由単独演武の部】優勝: 木原結城(2年)、3位: 南竜一(2年)【男子規定単独演武の部】優勝: 馬場響(2年)【男子自由組演武の部】優勝: 木戸海周(2年)・宮迫汰一(1年)組、【男子規定組演武の部】3位: 中村拓海(2年)・福山善己(2年)組、【男子団体の部】2位

○第31回近畿高等学校少林寺拳法大会(12/21・22和歌山県立体育館)【男子規定単独演武の部】1位: 馬場【男子自由単独演武の部】2位: 木原【男子自由組演武の部】2位: 木戸・宮迫組、【男子団体の部】3位

■硬式テニス部

○2013大阪市長杯世界スーパージュニアテニス選手権大会(10/20～27韋テニスセンター)【男子シングルス】ベスト32: 林大貴(2年)

○第36回全国選抜高校テニス大会近畿地区大会(11/16・17神戸総合運動公園テニスコート)【男子団体】準優勝

○2013第2学区東部地区テニストーナメント 曾我杯(11/23生駒テニスコート、門真なみはや高校テニスコート)【男子シングルス】優勝: 三浦滉(1年)、3位: 谷口信輔(2年)【女子シングルス】優勝: 仲西梨紗(2年)

○近畿私立高等学校テニス大会(12/10～12滋賀県立長浜ドーム)【男子団体】3位【男子シングルス】優勝: 逸崎凱人(2年)

○2013田村杯大阪ウィンタージュニアテニス選手権大会(12/22～1/12韋テニスセンター他)【17歳以下男子シングルス】準優勝: 逸崎【17歳以下男子ダブルス】準優勝: 林・田尻将之(2年)組、3位: 逸崎・上曾山拓実(1年)組、荒木直斗(2年)・小山拓人(2年)組

■演劇部

○第63回大阪府高等学校演劇研究大会大阪府大会(11/16・17箕面メイプルホール)優秀賞

◆今後の予定	団体名	大会名	日程	場所
	チアリーディングチーム	第20回西日本選手権大会	3/15～16	大阪市中央体育館
	男子硬式庭球部	平成25年度	予選 2/11～20	予選 各大学テニスコート
	女子硬式庭球部	関西学生新進テニストーナメント	本戦 3/4～10	本戦 万博テニスガーデン
	サイクリング部	全日本学生RCS最終戦	2/26	明治神宮外苑
	柔道部	近畿柔道選手権大会	3/3	滋賀県立武道館
	準硬式野球部	西都六大学準硬式野球連盟春季リーグ戦	3月下旬～5月上旬	伊丹スポーツセンター 他
	スキー競技部	下記参照		
	テコンドー部	第7回全日本テコンドー選手権大会	3/2	兵庫県立武道館(姫路)
		第7回全日本テコンドーブーム選手権大会	3/23	埼玉県入間市武道館
	陸上競技部	平成25年度学連長距離ロード競技会	2/8	長居周回コース
		平成25年度第3回学連競技会	3/13～14	西京極総合運動公園陸上競技場

◆スキー競技部	日程	大会名	開催地	カテゴリ	種目
	2/15～20	秩父宮杯・秩父宮妃杯 全日本学生スキー選手権大会	岩手県岩手郡雫石町・八幡平市	SAJ A	GS・SL・F・C・SJ・NC・R
	2/21～24	やまがた樹氷国体	山形県山形市・上山市	SAJ A	GS・C・SJ・NC・R
	2/28～3/4	天皇杯 全日本スキー選手権大会	北海道中川郡音威子府村	SAJ A	C・F・R
	3/9～13	全関西学生スキー選手権大会	長野県下高井郡野沢温泉村	SAJ B	GS・SL・F・C・SP・SJ・NC・R

◆今後の予定



緊急告知

中嶋さん 次は日本人対決!!

2014年2月に開催される「NJKF2014年第一弾大会」で、中嶋浩二さん(リングネーム・中嶋平八、スポーツ健康学科3年生)が日本人対決に挑むことになった。対戦相手は、昨年9月、約2年ぶりに大怪我からの復帰を果たし、ヒジ打ちによるTKO勝ちで復活した羅紗陀(らしゃた/キングジム)。この試合はWBCムエタイ日本スーパーフェザー級王者・狂平(武勇会)への挑戦権を懸けて行われる。

日時 2014年2月16日(日)
場所 東京・後楽園ホール

大阪桐蔭高等学校吹奏楽部

第9回 定期演奏会



日時 ●2014年2月23日(日)
12時開演(11時開場)・16時開演(15時開場)
●2014年2月24日(月)
18時30分開演(17時30分会場)

場所 ザ・シンフォニーホール

入場券 S席: 2,000円 A席: 1,500円 B席: 1,000円

詳しくはホームページまで <http://www.toinbb.com>

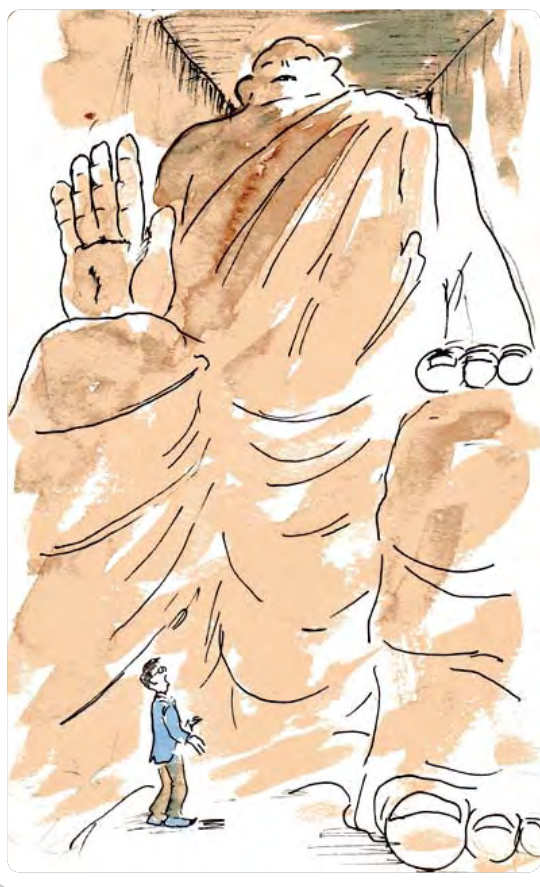
キャンパスセラピー

20

男と女、 人づきあいの違い

人間環境学部文化コミュニケーション学科教授

中川 晶



中国の西の果て敦煌の岩山を削り出して作った大仏に
ほくが驚いているところ

女性はどうも小さい頃から自分の感情を表現することや相手の感情を読むことの練習を男性より多く積んでいるようです。幼い子どもたちの集団を観察していると面白いことに気がつきます。女の子の集団の中で一人の子が突然泣き始めた場合、周囲の女の子たちはどうするのでしょうか？ すぐに泣いている女の子のそばに集まって来て「○○ちゃん、どうしたの？」と心配顔で尋ねます。これが男の子の集団ではどうでしょう。「何だ、こいつ、突然泣き出したりして。変な奴」と女の子の場合とは逆に周囲の男の子たちは遠ざかります。つまり女の子は自分の感情を周りから尋ねられ自問することが多いのに対して、男の子では陰性の感情はなるべく出さないように育つようです。（男の子は泣いてはいけないのです。もっとも、最近の男の子は少し変質しているように思うのですが…中年男の偏見でしょうか？）

社会心理学では言葉の使い方に男女差があると言われています。男女の言葉の使い方の特徴はそれぞれ道具性、表出性と呼ばれています。簡単にいうと、女性は言葉を感情表現のために多用します。だから感情表出性といいます。女性の電話が長いのも、このへんに原因があるのかもしれません。つまり相手の感情状態を聞いてあげて、今度は自分の感情状態を相手に伝えねばならないのですから、その後で情報の伝達が行われます。これってまどろこしいようですが、人間関係を円滑にするのになかなか役に立っているのです。男性の電話が一般に短いのは単刀直入に用件に入るからです。手紙でいえば女性のものは時候のあいさつから始まるのに対して、男性のは前略から唐突に入るようなものなのでしょうか。つまり言葉を情報伝達の道具として多用するのが男性の言葉の特徴といえそうです。時に男性のような道具性の言葉の使い方をする女性がありますが、男性より周囲から非難されやすいようです。また女性が物より人間に関心を向けるのは最近の研究では脳の性差によるということが分かってきました。言ってみれば女性は皆生まれながらの心理学者で、成長するにつれて感情生活について皆一家言持つようになる傾向があります。

ところがこの一家言というのが実は危ないのです。もちろん女性に限ったことではありません。男性も自分なりの心理解釈をしますがどうも女性ほど迫力を持っていないようです。

それにしても誰かに相談を持ち掛けられると我々はついつい自分なりの心理解釈をしてしまい、それを相手に押しつけるところがあるようです。そしてその解釈というのは大抵偏っているのです、注意が必要です。要するに自分の解釈は決して中立ではないことを常日頃から認識しておくのが肝要です。

編集後記

今春はプロスポーツ選手が3人も誕生します。桐蔭高校硬式野球部の森友哉さんが西武ライオンズへ入団。大学ではサッカー部の江口直生さんと中山仁斗さんがプロサッカー選手としてスタートしますので、意気込みを語ってもらいました。また、プロとしては先輩にあたり、現役アスリー

トとして活躍するテニスの奈良くるみさんとキックボクサーの中嶋浩二さんに登場してもらいました。共通して言えるのは、しっかりした「夢」を掲げて、「ぶれない」精神力を持ち合わせているということでしょうか▽学園の源～その式～では、法人の評議員・理事で産大高校同窓会会長

の村上末治さんが大阪鉄道学校在学時のエピソードを語ります。登校時、先に行く先輩を追い越す際には敬礼をしたとのこと、驚きました▽大学キャリアセンターでは、3年生対象の「学内合同企業説明会」を予定しています。面接のノウハウ等を身につけて、自分の道を切り開いてください

▽「ズームアップこの人！」は産大高校演劇部顧問の合田早加江先生を取材しました。男子学生が多く、ジャンルが超コメディーとは大阪らしいなと感じます。また、「コミュニケーション能力」を高めることを演劇指導の目標にしていることも印象的でした。（総合企画室 峠 孝尊）